



今日から着手できる！ 物流現場改善 メソッド

働き方改革とホワイト物流の推進による物流現場改善は、大きなテーマです。そのためには、現場力の向上やITの導入に力を入れていく必要があります。ただし、ヤミクモに多額の投資を行っても大きな成果は得られません。ここでは物流業務改革に向け、知恵と工夫およびITで物流現場の課題を改善していく事例について紹介します。

知恵と工夫による事例

空容器は荷物が少ない時にまとめて回収

課題

トラックドライバーが製品の納入に加え、空のパレットやカゴ台車などの回収業務も行っていた。しかし回収に時間と労力がかかり、「改善基準告示」に基づく拘束時間の上限に抵触するリスクが高まっていた。

対策

納入先と交渉し、空容器の回収を納入と同時にに行わない運用に切り替えた。パレットやカゴ台車などの空容器専用置きスペースを設け、回収タイミングは運送会社側の裁量に任せてもらうようにした。

効果

- ・ドライバーが現場に滞在する時間が大幅に短縮。
- ・空容器専用置場を常設し、回収作業を効率化。

〈改善前〉

納入時にその場で空容器の回収作業まで実施する必要があったため、荷降ろし作業時間が長くなりがちであった。

〈対策・効果〉

納入時には製品を降ろすだけとし、比較的荷物の少ない日などに空容器だけをまとめて回収することで拘束時間が大幅に短縮。



納入先の敷地が広く、また空容器が散在していたが、交渉により専用の置きスペースを設置し、回収がスムーズに。

ITを活用する事例

「AIドライブレコーダー(ドラレコ)の活用」

課題

事故やヒヤリ・ハットの確認でドラレコを活用していたが、各車両からのデータ回収、パソコンへの取り込み、必要な映像のチェックなど手間がかかり、業務の非効率さに加えドライバーへのフィードバックが遅れていた。

対策

走行中のあらゆる挙動がAIによって自動分析される、高性能ドラレコへと段階的に切り替え、危険運転行動の瞬間映像がクラウドに自動保存されるようにした。

効果

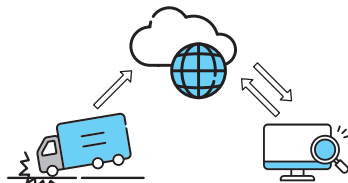
- ・ドラレコ映像の回収・確認作業にかかる時間が大幅に削減。
- ・遠隔でリスク運転の有無を把握でき、迅速な是正措置や注意喚起が可能に。

〈改善前〉

ドラレコのデータ回収～映像確認まで手間がかかり、ドライバーへのフィードバックの遅れによる安全意識の低下が懸念されていた。

〈対策・効果〉

AIドラレコで運転を解析し、一時不停止などのリスク運転行動を自動的に検知するようにした。



映像はクラウド保存され、安全管理も効率的に。

鈴木 邦成 (すずき くにのり)

物流エコノミスト、日本大学特任教授、博士(工学)(日本大学)。早稲田大学大学院修士課程修了。日本ロジスティクスシステム学会理事、日本SCM協会専務理事。専門は物流・ロジスティクス工学。主な著書に『物流DXネットワーク』(NTT出版)、『入門 物流(倉庫)作業の標準化』(日刊工業新聞社)。